

標準語引
分類方言辞典

附 全国方言辞典補遺



分類方言辭典

定價四八〇〇円

昭和二十九年二月二十四日 初版発行
昭和六〇年三月一日 二七版発行

編者 東條操

発行者 澄田讓

印刷所 文殊印刷有限公司

製本所 渡辺製本株式会社

発行所 株式会社 東京堂出版

東京都千代田区神田錦町三ノ七 (〒100)
電話東京 三三―三七四一 振替東京 三三―七〇

はじめに

「全国方言辞典」の序言の中で、辞典の利用価値を倍加するために、部門別索引と標準語から方言を求める索引とをやがて補いたい希望を述べておいたが、今回漸くその索引を改編した標準語引分類方言辞典と「全国方言辞典」の補遺篇とを合せて公刊する運びになった事は、まことに本懐の至りである。

辞典本来の性質からいうと、方言辞典としては俚言を五十音順に排列した「全国方言辞典」式のものゝ最も本筋のものであるが、使用者の側からいうと、その用途に従つて部門別分類のものも標準語引のものも、時には地方別のものも必要となるわけである。この中で、地方別のものには従来、各地で出版されている方言集の類——巻末の方言集書目抄参照——をそのまま利用する事ができよう。

本辞典の第一部ともみるべき標準語引分類方言辞典は、第一次分類を意義に基づく部門別とし、次に各部門内を標準語による五十音引としたもので、いわば部門別と標準語引とを併せたものである。部門の分け方は必ずしも世間一般の例にならわず新規準を立て、全語彙を意義に従つて分類した。新規準による分類体系の詳細と引き方については別に説明するところによって承知された。

い。

なお、利用者の便宜のために、二種の一覧と全語彙の標準語索引とを附載した。もちろん標準語索引は、標準語の確立を見ない今日、いわば共通語または東京語による索引である。分類方言辞典は、その性質上その俚言の分布や用例等をも掲ぐべきであるが、既刊「全国方言辞典」との重複を考えこれを省いた。参照の労をとられれば幸である。

第二部ともいふべき補遺篇は「全国方言辞典」に漏れた主要な俚言を集めたもので、最近刊行の方言集などを主材とし、特に資料不足の地方の俚言を補充するに努めた。また南島語彙については、島袋盛敏氏の稿本琉球語辞典から同氏が親しく選択した重要な語彙を同氏の好意によって収録することを得た。

前年「全国方言辞典」を出版した際全国の熱心な読者諸賢からいただいた激励や教示は、著者をしていく感激させたが、これらの中の貴重な資料は、国立国語研究所地方調査員各位から寄せられた増補語彙とともに、その主要なものを本篇に収めることを得た。都竹通年雄氏の好意により助詞助動詞などに関する同氏の研究を本篇の終りに載せたことも、その方面の資料の多くを割愛した本辞典としては、読者のためにこれ喜びたい。

巻頭のアクセント分布図は、本辞典のために平山輝男氏が最近の踏査に基づいて作図したもので、これによって全国各方言のアクセントの性質の大観を得ることができる。教授の好意は謝するに余りがある。

本辞典の出版には、東京堂の増山、石井両氏の尽力のほか、国立国語研究所の岩淵悦太郎氏及び柴田武、林大の両氏の配慮によるところ多大である。上記の諸氏に対して深厚の謝意を表したい。例によって千葉大学助教授大岩正伸氏は、分類の企画を初め編集から校正に至る一切の仕事を担当した。協力者というよりは共編者としての同氏と、氏を助けた大橋弘子、野口伸子の両君に感謝する。

昭和二十九年 文化の日

学習院大学にて
東 條 操

凡 例

分類方言辞典は、事物に対応する方言を索めるためのものであるから、概念的意味によって十四の部門に分け、各部門の中を標準語の五十音順に排列し、文法上の品詞の別は顧慮しない。例えば「服飾容姿」の「傘」には、

かさ（傘） *あまぐ ⑤さしがさ・さな・こんこ（児）。

【こうもり傘】 ④はぶりさな・らんがさ。

【傘一本】 ④いっかい。

【傘をさす】 ④かぶる。

【傘にいれる】 ⑤傘に「のせる・④傘を「かつべる」。

【傘にはいる】 ⑤かさ」にのる。

方言の使用地域は、全国方言辞典及び同補遺についてこれを見ることとし、いっさい省略した。

符号④以下は全国方言辞典に収録した語、⑤以下は同補遺に収録した語である。

符号「及」は、それぞれそれ以上又は以下の部分をもつて採録してあることを示す。前記の例「傘にいれる」は、全国方言辞典に「のせる」同補遺に「かつべる」として採録してあるものである。

符号*は関連項目を示し、↓はその項目をもつて類聚してあることを示す。関連項目などが他の部門に属する時は括弧内に所在ページを注記した。↓をもつて所在ページのみを示したものは同じ項目名のものである。

括弧を使つて方言をかこんだ左の如き場合は、とおせんぼ（通行止遊） ⑤はっと・はっとばり（はっと）

・はっとばり・やらんばんば・やらんば（やらんばんば）。「はっとばり」やらんば」がそれぞれ見出語「はっと」やらんばんば」の下に同意語としてあげてあることを示す。

全国方言辞典補遺は、全国方言辞典の例に従うが、見出語に*印をつけてあるものは、同形か類似の形でそれに既に採録してある語の補説であることを示す。

このたびは、江戸時代のみならず明治前期までの文献に典を注記した。そのうち略称によるものを左に掲げる。

ロドリゲス……「日本文典」、慶長九年 1604 刊（「民族」二ノ一所載橋本進吉博士の訳文による）

房総漫録……「房総三州漫録」又は「房総雜記」、天保十四年 1843 深河元儻稿（昭和十七年版房総叢書七所収）

異本尾張……無窮会本「尾張方言」、「統尾張方言」を合綴、編者未詳、元治年間 1864 稿、写本

ダラス……「米沢方言」、明治八年 1875 日本アジア協会会報第三卷所載（昭和廿八年斎藤義七郎氏複製発行）

国誌……「大日本国誌」、内務省地理局編、安房明治十九年 1886 刊、上総大正三年版房総叢書二所収、他州稿本

言語達……「東京京阪言語達」、明治十九年 1886 板（国語研究四ノ一複製）

琉英語彙……チェンバレン「琉球文典」所載、明治廿八年 1895 刊

方言一斑……村岡良弼「下総方言一斑」、成稿年未詳、（房総郷土研究資料第十号所収）

但、八丈島方言はすべて「八丈島の言語調査」による。南島方言の表記に「う」(Wu)「う」(Um)「え」(Ei)を使ったが、排列は「う」「う」「ひ」に従った。

目次

はじめに

凡例

分類方言辞典

天地季候（天象・海陸・潮流・河水・山野・季節・氣候・明暗・冷熱・方角）

鳥獸虫魚

一 陸棲動物

（元）

二 水棲動物

（英）

草木菌藻

肢体健康（死生・傷病・医薬・体力・労苦・感覺・動作・呼吸・音声・排泄）

服飾容姿（髭髪・美醜・化粧・裁縫・糸紐・袋物・身辺・遺失・雨具・履物）

飲食嗜好（炊事・炊具・食事・食器・陶器・味覚・食慾・飲酒・喫煙・茶菓）

住居坐臥（建築・園池・家財・火氣・炉辺・睡眠・入浴・行儀・始末・修繕）

老幼男女（世帯・夫婦・親子・雇人・親族・老若・産育・素行・愛情・叱責）

社会交通（都鄙・遠近・乗物・道路・航海・交際・言語・褒貶・与奪・腕力）……………二四一

附一 人代名詞——自称・对称・他称……………二八五

附二 応対詞——呼掛・返事・挨拶・訪問・謝辞……………二八六

生産消費（職業・勤怠・難易・貧富・損益・慾望・使用・支障・娯楽・教養）……………二八八

行動性情（行為・思考・判断・性質・利鈍・感情・好惡・喜怒・快樂・困苦）……………三三六

附 觀念的表現——問投詞・接辞・助動詞・助詞……………三六三

事物時所（年時・位置・有無・大小・多寡・新古・色沢・形態・狀況・処理）……………三八八

附 数量的表現——數詞・助數詞……………四〇九

農山漁村（田畑・耕作・用水・機械・牧畜・薪炭・林業・狩獵・漁業・舟筏）……………四一〇

習俗信仰（歲事・神仏・葬祭・忌服・祝儀・婚姻・運命・怪異・伝承・慣習）……………四二〇

様相論資料所在索引……………四七二

擬声擬態語所在索引……………四七三

全国方言辞典補遺……………四七七

方言集書目抄……………四七九

標準語による五十音全索引……………四八四

天地季候

あかしお (赤潮) ↓しお
あかつち (赤土) *つち ㊦あかばね
・はに・㊦あかべー。

【赤土粘土など】 ㊦かまつち。

あかるい (明) *あかり (一八一べ)

㊦あかい。

【明るいさま】 ㊦まんどう・㊦まんどう

【急に明るくなり又暖かくなるさま】

㊦どつかり。

【明るく晴れやかなさま】 ㊦はんなり。

あき (秋) の初め *しよくよく (二六

五べ) ㊦あきささか。

【秋冬の頃】 *さむい ㊦くれかた。

【旧十月の頃】 ㊦しもさき。

あさい (浅) ↓三六九べ

あさせ (浅瀬) *うみ ㊦あさり・げら

・さら・さらせ・さんさら・せだな。

〔天地季候〕 あかーあな

あさやけ (朝焼) ㊦あさかじ・あさに

じ・あさひやけ・あせー。

【朝焼或いは夕焼などで空が赤くなる】

*たいよう ㊦あけーゆん。

あたたかい (暖・温) ㊦ぼーぼい・ほつ

とーる ㊦ぬくい・ぬくとい・㊦ぬき

い・ぬくさん・ぬきたい・やわらしい。

【暖かいさま】 ㊦ことこと・どかどか・

ほつこり。

【温かみ】 ㊦ほけり・ほとり。

【暖まる】 ㊦ぬくたまる・ほどまる・

ほとる・㊦ぬくとまる・のとまる。

【暖める】 ㊦ぬくめる。

【なま暖い・なまぬい】 *てんき

㊦おほぬくい・おほぬい・けなるい

・ずるい・へなまぬい・ほほらぬい・

㊦なまぬくい。

【暖かなところ】 ㊦こーぼ。 「り。

【暖かみの残っているさま】 ㊦ふりふ

あたん (亜炭) ↓せきたん

あつい (熱・暑) ㊦どめく ㊦ほとお

る ㊦あたたたい・ぬきたい。

【湯などの熱い】 ㊦いたい。

【たまらなく暑い】 ㊦ほーたりあつい。

【むし暑い】 ㊦うずらしい・うぞらし

い・おずらし・どや図・にやにや ㊦

ぬくだらしか・ぬぐらこい・ほつぼら

ぬくい・ほどろぬくい。

【むし暑い・むす】 ㊦いきる・うずれ

る・うむける・うもれる・おめく・お

もれる・どえる・どやつく・にだえる・

にだめく・ねだめく・ほかる・はたる・

ほのく・ほめく・むしくる・むしめく・

むしやつく・むせくる・もえる・㊦う

みる・うむす・にやずく・ふつかえす。

【暑苦しい】 ㊦えきたい・こわい・し

やしやくてえ・㊦あつらばつたい。

【あつがり】 ㊦あつらさうみー。

【熱気・ほとぼり】 ㊦ほのき。

【暑い盛り】 ㊦まふつくわ。

【猛烈な暑さでふうく云っているさ

ま】 ㊦あついやーふーやー ㊦

あな (穴・孔) *くぼち・つか・おと

しあな (二九二べ) ㊦うっげ・かま

【五月初めの陰雨】 ㊦しびじけ。

【晩夏初秋の頃に降りつつく雨】 ㊦な
がせ。

【旧八月頃に降る長雨】 ㊦なべわり。

【春の雨】 ㊦きのめおこし・きのめな
がし・きのめやし・さくらあめ・よ
いず。

【村雨】 ㊦ふっかけ・わたくしあめ・
㊦ふっつけふっつけ。

【海から来る村雨】 ㊦おきあげ。

【秋雨・驟雨・夕立】 *かみなり ㊦

あたま・あまぐり・うれー・おかだ
ち・おちあれ・くまだち・さだち・さ
ぶり・ざらく・さんばいね・しかけ・
すばい・そばえ・だしあれ・たんでき
あめ・ところより・どしやけ・ながれ
あめ・ばいそーり・まちあもり・もら
ったあみ・やといたぶり・ゆいず・よ
ーあめ・㊦なつぐり・ふっかけ。

【雷雨】 *かみなり ㊦おらいさまあ
め・かだちあめ・かんだち・㊦かんだ
ち。

【北から来る夕立】 ㊦さなげゆーだち。
【夏の夜の秋雨】 ㊦よじ。

【秋雨が降る】 ㊦すばえる・そばえる。
【時雨・しぐれ】 ㊦きたけ・ぐり・さ
んざ・しぶち・しほれあめ・つばえ・

ふっこし・やまめぐり・㊦しぶち・て
ねばおろし。

【九月十月頃の村時雨】 ㊦ふりかかり。

【冬の時雨】 ㊦しむだち。

【十一月頃の時雨】 ㊦きたしぐれ。

【降ったりやんだりする雨】 ㊦あげあ
め・あげぶり・おっかけびより・しぐ
しく圓・はこびあめ。

【雨が少しずつ降る】 ㊦しまける。

【風交りの小雨】 ㊦かせのそばえ・か
ぜのみ・しぶけ。 ㊦ばい。

【冬の雨雪に強風の加わること】 ㊦す
吹き降り ㊦しぶき・しぶく圓・ふ
ぶき・ふりぶき。

【十二月中旬の風雨】 ㊦ゆきおろし。

【強風雨】 *かぜ ㊦おーしゃつば・
さじける圓・ざらく・しばてる圓・し
んどあれ・はつふい・よびげ。

【大雨大風の日】 ㊦しだらでん。

【雨後の荒れ】 ㊦あまがえし。

【大雨】 ㊦あしじろ・どーさめ・ぬけ
ふり・㊦おーしゃじく・たてこーじ。
【急の大雨】 ㊦だいしやちこ。

【雨の甚しく降るさま】 ㊦ちつちくち
つちく。

【秋雨で水が流れる】 *ころずい・み
ず ㊦とーす。

【雨水があふれて川のように流れる
と】 ㊦あらおす。

【大雨の音のさま】 ㊦がーがー。

【雨や雪の度々降ること】 ㊦ちかまわ
り。

【降り始める】 ㊦おちぶる・そばえる。

【本降りになる前にばらばら落ちかか
る雨】 ㊦さーけ。

【本降りの雨】 ㊦じより。

【雨などの勢が衰える】 *かぜ ㊦おだ
れる(一一四べ右端)・おろーになる。

【小降り】 ㊦こばれ・こまより。

【雨が止む】 ㊦あかる・あがる(あか
る)。

【雨などの止むのを待つ】 ㊦やめる。

【風が吹いて雨のあがること】 ㊦ぬれ
おち。

【雲が消えて晴れる】 ㊦はげる。

【雨の晴れ間】 ㊦あまつさい。

【旅行などの時降られる人】 ㊦あまん
じゃく。

【あらし(暴風雨)】 ↓あめ・かぜ
あられ(霰) ㊦あらあめ・こめこゆき・
ゆち。

【細かい霰】 ㊦こざら。

【あられ(荒地)】 *つち・やきばたけ
(四四七) ㊦あて・あらく・くどれ

・ずっこ・●そらしばたけ。

〔不毛地〕●あーら・あかわん・がーたら・がーらま・がしどち・かすのち・がせち・がらくた・がんこつわら・けけすわら・こーげつばら・こさ・じわる・どい・ぼった・●のつぼ。

〔乾燥する不作地〕●がらてん。

〔土地の瘠せる〕●がする。

〔山の端の荒れ地〕●まぶ。

〔土や樹木などの無い岩山〕*きんりん(四二七べ)●あてば。

あわ(泡)●がんばん・がんばんつ・がんばんつ・がんばんつ・こぼつさん・こんぼつ・だんぶつ・ひぼくらめ・ぶく・ぶつつー・ぶら・まー・●たまんぶく。

〔水が泡を立てる〕●ぐわんがらかわ

あんさんがん(安山岩)●くろいし。

あんしょう(暗礁)*いあ●あむで

い・いかだ・いさ・いわ・うちびし・うみいし・えん・おこ・かくりてい・かくれいし・かくれぜ・かさぜ・くりしー・しま・じる・す・すい・ずぶ・せ・そーあい・そーわ・そね・そわえ・てしー・ね・はえ・びー・ひし・まくら・めくらいわ・やげん・やま・●あさね・いわんね・かじかき・ふいし。

いおう(硫黄)●ゆおん。

いけ(池)*つつみ●あわ・いけす・いちたらい・かわ・どんぶ・ほり・●いけんど・たないど・たなげ。

〔小池〕*ためいけ(四三六べ)●きし・たない・ほり。

〔池沼などの落口〕●すど。

いし(石・小石・礫)*きりいし(一八九べ)●いしな・いしなこ・いしは

い・がら・がらす・ぎは・ぐり・ぐるくるいし・こーら・こーろ・こまめ・こら・こらいし・ころ・ころた・さざり・まさこ・まなこ・ゆな・●がら・ごろ・まいし・ゆな。

〔玄武岩質の小石〕●あぶらいし。

〔石のかけら〕*かけら(三七六べ)●こーろ・こつば。

〔道端の邪魔になる石〕●どんころいし。

〔大石〕●どんがらいし。

〔石塚〕●こーら。

〔小石を積んである所〕●ぐろ。

〔小石を踏んで転ぶこと〕●いしぐるま。

〔土と石と混っているもの〕●がら。

〔石地〕*つち・たはた(四三五べ)

●がーら・がーら・がた・がばらじー・がらじ・がらす・がらつば・がらはら・かわら・くらわら・ぐろ・ぐろんこー・こーつ・こーとー・こーや・こーら・こーろ・こーとー・こーろ・こーとわら・さく・さろし・はばら・ふらぎ・●いしこらじ・いしま・いしわら。

〔大石のころころしている土地〕*いわ●えわがんぜ。

〔小石の多い山〕●ざれやま。

〔山の小石の多い所〕●ぜり。

〔石ころ道〕●いしからーみち・いしがらーみち。

いしがけ(石崖)↓いしがけ(一八三べ)・きし

いしだん(石段)↓一八三べ

いずみ(泉)*しみず●かど・かま・がま・くんごさい・しみずいど・しゅーず・しよーず・すず・すい・でみず・ばいな・ひぐち・ひやけ・ぼくぼくみず・ほら・●さーや・です・ねみず・ふね。

いそ(磯)↓うみ

いなびかり(稲光)●おひかり・ひかめき・ひかりもの・ひじゅり・ひなでり・ふでい・ほでり・まぶらけ。

〔稲光りする〕●はでる・●はてる。

いぶる (煙) ↓けむり (一九〇べ)

いりえ (入江) ④いり・いりこ・いり

わだ・うたり・うたれ・うら・えは・

かや・みなと・わごみ・わだ・④えこ・

「入江の奥」 *かわ ④こつ・

「江水や土地の曲って入りこんだ所」

④いりくりえんどー・

いわ (岩) ④いそ・いわがつとー・い

わす・いわた・がた・がんずー・すー・

「大きい岩」 ④しー・ 「やと・

「連なつた岩」 ④さば・

「岩山」 ④がけつわら・がんきよー・

がんけつわら・ 「く・くら・まこ・

「岩石のきりたつた場所」 ④いわくら

「岩などのこつ／＼出てゐる所」 ④が

んがら・がんくら・④くら・「ま・せ・

「海面上に出てゐる岩」 ④うきね・し

「波に没する岩礁」 *あんしやう

④しま・

「海岸近くの岸礁」 *うみ ④いそ・

「海岸の岩礁の上」 ④しばな・

「岩と岩との間」 ④えこ・えこた・

「岩と岩との間の砂地」 ④くま・

「川の中の岩蔭」 ④がまんど・

「岩のえぐれた所」 ④あぐーな・

「水中の岩穴」 *あな ④えこ・がま

・くり・わこ・

〔天地季候〕 いぶーうみ

「波の打入る海岸の岩窟」 ④どんどん

めき・ 「ら・

「岩窟」 ④がんこ・ほこらあな・やぐ

「岩石ばかりの土地」 ④えもおり・

「常に水にぬれていて滑る岩」 ④なめ

ら・

「雑草の生えてゐる岩」 ④くらまぶ・

「岩などの掩いかぶさるようになった

所」 ④あぶき・

「粘土岩」 ④さなれ・さば・

「岩根」 ④くらね・

うず (渦) ④ぎじぎじ・ぎゅ・ぎり・

ざんざり・ぐず・つるまき・まいざり・

まいまい・まき・まきめ・まつこみ・

④だえろまき・

「渦を巻く」 ④ぎし」まく・ざり」が

舞う・こー」がまう・

うすぐらい (薄暗) ↓くらがり

うみ (海) *おき ④おき・なだ・ば

た・④りゅーこんさん・

「海水」 ④いそみず・

「神に供える海水」 ④しおい・

「海面」 ④けーしよー・④けーしよー・

「海面の静かなこと」 ④ぎらなぎ・ぎ

らばり・

「冬の朝海より立つ水蒸気」 *きり・

ゆげ (二八〇べ) ④いーか・

「海上で船と陸との間」 ④なだ・

「沖の波と浜の波との中間の静かな所」

④うたり・「いる所」 ④おーざや・

「波打際より沖寄りの大波のゆらいで

「波打際に近い海面」 ④かち・けた・

たか・なだ・へた・

「波打際・なぎさ」 ④うたり・うど・

えこ・けた・こつばげ・しよーぶたれ

・なぞ・びだ・ 「とさき・

「海岸」 *きし ④えばた・ばた・は

「海べ・海浜」 ④おき・おきのはま・

おつば・かにく・きし・はますか・は

まんこら・④すかばた・なだべり・

「広い浜」 ④うつばま・

「砂浜」 *すな ④いなはま・おきのはま・

す・す・すか・ひらはま・

「小石のころころしている浜辺」 *い

し ④はまこーら・

「磯」 ④しま・

「海辺の崖」 *がけ ④うた・

「浜へおるための段」 *おりくち

(一八七べ) ④がけ・がんぎ・

「海辺のくぼ地」 ④うたり・たんぼ・

ふむい・やと・

「波が荒した海辺の道」 ④わしり・

「海岸の埋立地」 ④しんち・つきだし・

「海近くの土地」 *た ④じかた・つ

ばた・はまみら。
 〔海沿いの高地〕 ㊦すか。
 〔海中〕 ㊦おんなか。
 〔海の深さ〕 ㊦たち。
 〔海の深い所〕 *ふち ㊦こーか・㊦がんま。
 〔海の急に深くなっている所〕 ㊦おだな・かたふち・どんどろ・はたくち。
 〔水底の傾斜面〕 ㊦かばち。
 〔海岸の浅い所と深い所との境〕 ㊦はぶち。
 〔海中の崖のふち〕 ㊦けた。「ざ。
 〔波の浸蝕によって生じた洞穴〕 ㊦あ
 〔海底の岩穴〕 *あな ㊦くり。
 〔海底の岩と岩との間の砂地〕 ㊦くま。
 〔海底〕 *いわ ㊦しき・したま。
 〔沖の海底〕 ㊦のま。
 〔浅浅になっている海岸〕 *あさせ・ひかた ㊦あさがり・おりんば。
 〔暗礁のない砂地の海〕 ㊦くす。
 〔干潮の時に現われる海底〕 ㊦がた。
 〔海底の潮〕 *す ㊦すねい。
 〔混中の潮で海草の少ない所〕 ㊦とこ。
 〔小石の海底〕 ㊦がた。
 〔海底の泥地〕 ㊦がた。
 〔海中の砂や泥のぬるぬるしている所〕 ㊦のろ。

〔海のごみ〕 *かあ・も(〇九一べ) ㊦がす。
 〔防潮林〕 *ぼろふうりん(二〇八べ) ㊦しよぐね。
 〔海神〕 ㊦りゅんがん。
 〔海幽霊〕 ㊦うぐめ・ひきもーれん。
 〔日本海〕 ㊦きたまえ。
 うみべ(海辺) ↓うみ 「だし。
 うめたてち(埋立地) ㊦しんち・つき
 うろ(虚) ↓あな
 うんま(雲母) ㊦さら・㊦さら・せ
 んまいめくり・めくりいし。
 〔白雲母〕 ㊦かみがらす。
 ㊦おみず(大水) ↓ころすい。
 ㊦おか(丘) *だいち ㊦あげ・うず・
 そら・つか・ひら・むらつく・むり・
 もり。
 〔小山〕 *やま ㊦とんぶ。
 〔小高い〕 ㊦つんぼらたかい。「べ
 ㊦おが(小川) ↓かわ・ほり(二〇八
 おみ(沖・沖合) ㊦あけら・あけ。
 おみ・だいな・でーなん・でなん・
 とー・となか・なだ・ぶーどろー・ば
 た・㊦うーとろ。
 〔灘・なだ〕 ㊦とや。
 〔三以上沖合の外海〕 ㊦たらば。
 〔天と海とが合して見える所〕 ㊦さね

ーし。
 〔沖の太陽の出る方〕 ㊦おきのふもと。
 〔沖の海底〕 ㊦のま。
 おと(音響) *かなもの(一八八べ) ㊦おとねい。
 〔がたがた・ごとごと〕 ㊦がかもか。
 おね(尾根) ↓みね
 おぼれる(潮) ↓〇九八べ
 おんど(温度) のむらなこと ㊦のこぎ
 りおんど。
 かいがん(海岸) ↓うみ
 かいきよう(海峡) ㊦せと・みじゅ。
 かいこん(開鑿) ↓四一七べ
 かいすい(海水) ↓うみ
 かいてい(海底) ↓うみ
 かげ(陰) *かげ(二九べ)・ひか
 げ ㊦かけのこ・かけら。
 〔山陰〕 ㊦ならい。
 〔茂った木の蔭になっている所〕 *
 しげる(〇七八べ)・さくもつ(四二
 六べ) ㊦ほら。
 〔岩の蔭になっている所〕 ㊦あぶき。
 〔岩や草木の蔭になっている水辺〕 ㊦
 やげ。
 〔川の中の岩石の蔭〕 ㊦がまんど。
 がけ(崖・断崖) ㊦あたきし・いわ・
 いわがんけ・いわくら・いわすかんべ。

いわたき・いわまこ・うた・うつろ・うと・おてぎし・かがら・がけきし・がけくら・がけす・がけと・がけらっぱ・がけんばち・がつかけ・がつけ・かて・かべ・からんびし・がんくら・がんくれ・がんげ・がんけら・がんせき・きし・ぎし・きしのはら・きせ・きつておとし・きつとたてきりぎし・くえ・くら・くらつぱち・げしこし・さー・さき・ざつかけ・ざんかけ・しらかけ・たき・たきまっこー・だけ・どて・のけ・はけ・ばっけ・はば・はぶ・はんぶかけ・はべ・ばんた・ひし・ひら・ひらこ・ふら・ほき・ほけ・ほつけ・ほら・まこ・まったき・まぶ・まま・おちぎし・がけつと・がらんがえ・だけら・はけ・はんた・ぼらっけ・まま・わるばち。

【土砂などのくずれた所】 *やまくずれ ㊦がらんど・かれ・がんかけ・くどれ・さく・さくずれ・さつこけ・され・じやく・ぞべぞべ・ぞれ・なぎ・びやく・いわくえ・まま・ままくど。

【崖が崩れる】 *くずれる(三七九べ) ㊦つえぬけ ㊦びやくく ㊦がくむ。

【崖がゆるむ】 ㊦うむ。

かけはし (棧道) ↓やまみち

かこう (火口) ㊦ほど。

かこうがん (花崗岩) ↓みかげいし

かこうこ (火口湖) ↓みずうみ

かさんばい (火山灰) *つち ㊦よな。

ガス (天然瓦斯) ㊦がらめき。

かすみ (霞) *きり ㊦かつり・きつび・ちりべー。

【霞みわたる】 ㊦かつれる。 「ぎ。」

かぜ (風) *なき ㊦どんど・いぶ

【順風】 ㊦しりかぜ・せこ・はらし・まとうむかじ・まふー。

【日和風】 ㊦といて。

【そよ風】 ㊦あらし・うすかじ。

【風のそよそ吹く】 *くさき (〇七四べ) ㊦さらめく・㊦なるい隙。

【物の動きによって起る微風】 *あかり (一八一べ)・すきまかぜ (一九五べ) ㊦あおち。

【二月の風】 ㊦おにぎた。

【二月頃の疾風】 ㊦しおて。

【二月十五日前後に吹く風】 ㊦ねはんしにかせ。

【三月の風】 ㊦へばりこち。

【八月の風】 ㊦あおぎた・さけおろし・㊦てほおとし。

【九月の風】 ㊦はまにし。

【十月の風】 ㊦ほしのいりこち。

【旧十一月十二月の風】 ㊦おーにし。

【春風】 ㊦したけ。 「したけ。」

【春から夏にかけて吹く東風南風】 ㊦梅雨季の雨降らぬ風 ㊦しらほえ。

【梅雨半ばに吹く風】 ㊦あらはえ。

【春夏の風】 ㊦せたあらし・ながせかせ・やませかせ。

【夏の夕風】 ㊦どば。

【夏の疾風】 ㊦かんだち。

【夏の夕立に伴なう強風】 ㊦わいた。

【秋冬の風】 ㊦ひあらし。

【木枯の風】 ㊦ちゅちゅかせ。

【からつ風】 ㊦かんからかせ。

【大風】 ㊦うじんまき・とりもの・おにかぜ。 「へーし。」

【大風の後に吹く反対方向の強風】 ㊦

【颶風】 ㊦おちかせ・かせのたま。

【颶風の余波】 ㊦あびき。

【暴風】 *あめ ㊦はつこーかせ・㊦とんこかせ。 「きた。」

【俄かに吹いて来る北の暴風】 ㊦おち

【突風】 ㊦おとし・かまき・しまけ・へーし・わいた・しだぎ。

【雨と共に来る風】 ㊦おちかせ。

【風の吹いて来る】 ㊦おちる。

【風が勢を加える】 ㊦しこる。

【風が激しい】 ㊦かぞーさん。

「吹き乱れる」 ㊦したむ。
 「風が強く吹いてやかましい」 ㊦おー
 かまし。
 「風などの盛りを過ぎたさま」 *あめ
 ㊦おろい雨。
 「風が止む」 ㊦とえる。
 「風の吹き当る所」 *こうち ㊦さつ
 「風下」 ㊦はでいっさら。「つけ」
 「風の吹きぐあい」 ㊦かざくち。
 「風の定まらぬこと」 ㊦ろんぎ。
 「風の方向の変る」 ㊦かわせる。
 「湖上の風」 ㊦ねわたし。
 「山から吹きおろす強風」 ㊦おとし。
 「山手から来る風」 ㊦きただし。
 「陸地から沖へ吹く強風」 ㊦おやのか
 ぜ・だし・㊦だし。「ひえ」
 「海上より来る風」 ㊦うかえし・おき
 「陸からと海からの風が吹き合つて風
 の如く後に時化となる風」 ㊦よいちか
 ぜ。
 「東風」 ㊦あゆのかぜ・うのせ・おき
 ・おきあげ・くち・くちぶち・こいの
 かぜ・こち・こち・こちかぜ・した
 け・しもーさこち・しもかぜ・だし・
 つなみかぜ・ならい・ばんどーたろー
 ・ひばりこち・ひらなりやー・まえか
 ぜ・やませ・やませかぜ・㊦あまかぜ

・いなさ・うらかぜ・くちぶち・こち
 ・なしかぜ・なみかぜ・まこし。
 「北寄りの東風」 ㊦よいち。
 「春から秋まで朝吹く弱東風」 ㊦あら
 し。
 「春の東風」 ㊦うめこち。
 「春の東風の吹く日」 ㊦かつおびより。
 「三月頃の東風」 ㊦さくらこち。
 「四五月頃の東風」 ㊦さわらこち。
 「四月八日に吹く東風」 ㊦とーぜんぼ
 「五月の東風」 ㊦しよーぶこち。「一」
 「六月中旬の東風」 ㊦ぼんこち。
 「十月頃の東風」 ㊦めくらこち。
 「南東風」 ㊦いなさ・おきあげ・おし
 やばえ・かしげ・くんだりやませ・くに
 ばい・しかた・たかこち・だし・つな
 みかぜ・ひかた・やませ・ゆーずがや
 し・㊦いなさ・こち・さながし・たか
 まじ・はなかせ・はまそい・よいち。
 「三四月の南東の強風」 ㊦なたねづゆ。
 「四五月の南東の強風」 ㊦たけのこづ
 ゆ。
 「沖が南東風で近海が北風の時」 ㊦ど
 ぶ。
 「南風」 ㊦うまばえ・おき・おくれま
 じ・きぜ・くだり・さがり・かりな
 ぜ・じくだり・したけ・だし・ちくだ

り・つなみかぜ・はえ・はえのかぜ・
 はよのかぜ・ふえー・まえかぜ・まじ
 ・ませ・ませもと・やまじ・やませ・
 ㊦いりかぜ・ふえーかじ・そら・なが
 し・ふじおろし・ませ・わかぜ・わて。
 「大雨を伴う南の強風」 ㊦たまかぜ
 「晴天の南風」 ㊦しろはえ。
 「暖かな南風」 ㊦よーず。「みなみ」
 「初春の南風」 ㊦はなまじ・ばやばや
 「春の暖かい南風」 ㊦よーず・よーず
 のかぜ(よーず)。
 「梅雨前に吹く湿気の多い南風」 ㊦し
 ゆたらへー。「はえ」
 「梅雨頃の南風」 ㊦くろはえ・㊦くろ
 「梅雨のあがりかける頃に吹く南風」
 ㊦くるべー・しらはえ。
 「夏の南風」 ㊦ながし・㊦さきかぜ。
 「冬の南風」 ㊦ひあらせ。
 「旧三月上旬少し前から吹く南風」 ㊦
 あふらまじ。「せ」
 「四月のよい日和に吹く南風」 ㊦おほ
 「五月の南風」 ㊦あらはえ・ながし。
 「旧六月の南風」 ㊦しらはえ・㊦しろ
 はえ。
 「旧六月末の南風」 ㊦おくれまじ。
 「旧七月の南風」 ㊦おくりませ。
 「南西風」 ㊦あなじ・おーかわのぼせ